



研究主題

主体的に学び 考えを深める子どもの育成 ～学ぶ楽しさを感じ、学び続ける姿を目指して～

I 研究の概要

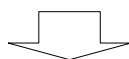
1 主題設定の理由

【昨年度の成果】

- 相手意識をもって話し合いに参加する姿勢の向上
- 話し合いによって理解が深まったという意識の向上
(有効だった手立て)・目的の明確化
 - ・実態に応じた場の工夫
 - ・ICTの活用

【昨年度の課題】

- 学び合いを充実させる基盤となる力の育成
(読解力・聞く力・伝える力)
- 自己有用感の向上



目指す子どもの姿

○学び合いを通して自己の変容を自覚し、
次の学びに生かそうとする子ども

2 研究の仮説

- 学習のプロセス（見通しをもつ、考えをもつ、話し合う、振り返る）を機能させた授業づくりを心掛け、自己の変容を自覚できるような振り返りを積み重ねることが、学ぶ楽しさを感じ、学び続けようとする姿につながるのではないか。

3 研究の重点と内容

(重点1) 学習のプロセスを機能させた授業づくり

〈学びの入口〉	〈学び合いの充実〉	〈学びの出口〉
見通しをもつ ・何が分かるのか ・何を求めるのか ・何を考えるのか ・既習を生かせるのか 考えをもつ～自力解決 ・何をどのように表現するか ・どこまでわかるのか ・何が分からないのか	話し合う 目的意識 ・何のために話し合うのか ・何について話し合うのか 場の設定 ・学習形態をどうするか ・どのような方法で伝えるのか ・聞く観点は何か コーディネート ・話し合いのゴールは何か ・何に気付かせたいのか ・何を引き出したいのか 有効な学び合い ・考えが深まったのはどこか ・考えが広がったのはどうしてか	振り返る～変容の自覚化 (重点2) 学びの価値付け ・何が分かったか ・何ができるようになったか ・どんな力が付いたか 学びの入口と出口の往還 ・変化や成長を自覚できる視点は何か 変容の見取り ・自己評価の仕方 ・相互評価の仕方

Ⅲ 研究の成果と課題

〈成果〉

習慣付けを図った指導の継続

○学び合う前に考えをもつ（書く）こと

- ・分かることや分からないことを自覚でき、目的をもって学習に向かうことができた。
- ・考えをもつことで、学び合いの場で発言することに消極的だった姿勢がはいぜんされつつある。

○導入と終末の往還

- ・自分の変容を具体的に振り返ることができるようになった。

○根拠を意識した発言（理由の追及）

- ・「なぜ」「どうして」の問い掛けにより考え直すことが、自分の考えを整理することにもつながった。
- ・繰り返し指導を行うことで、言葉に着目して読むことにつながった。

○話型の活用

- ・考えを整理して発表できるようになってきた。

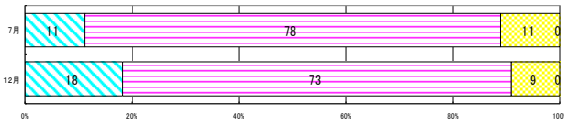
ICTの活用

○考えの共有化

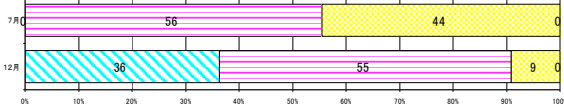
- ・思考ツールソフトを活用して提出状況を視覚化することで、自分なりに考えようと努力する姿勢につながった。
- ・考えの視覚化が、他者の発言を理解することや自分の考えを客観的に捉えることにつながった。
- ・同じ考えの仲間がいることが安心感につながり、自信をもって発言することができた。

教師アンケート

○自力解決に向かう手当の工夫をした。

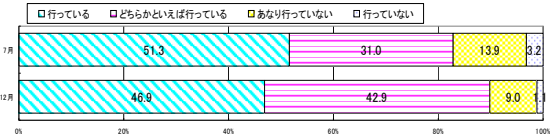


○目的を明確にした学び合いの場を設定した。

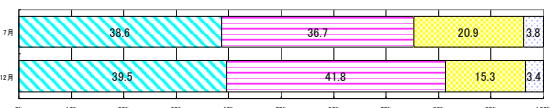


児童アンケート

○あきらめずに考えている。



○理由や根拠を明確にして考えを伝えている。



〈課題〉

△子どもにとって意味のある学び合いにする手立て

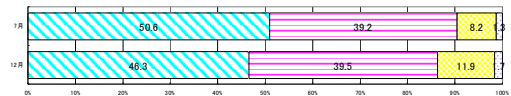
- ・変容の様子を具体的にイメージした授業づくり
- ・目指す子どもの姿の具体化（学びが広がる、深まる姿の共通理解）
- ・育てたい姿を明確にした継続的な指導の具体化
- ・話し合いをしてよかったと思える経験の積み重ね

△子どもにとって意味のある振り返りにする手立て

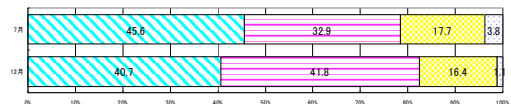
- ・変容の自覚化（自己評価）の方法
- ・目的を明確にした振り返りの方法や観点の工夫

児童アンケート

○話し合う活動をして、分かることが増えたり新しい考えやよりよい考えに気付いたりする。



○具体的に振り返っている。



V 来年度の方向性

- 学習のプロセスを機能させ、子どもにとって意味のある学び合いを位置付けた授業づくりを進める。
- 変容を自覚化することで、意欲の向上や知識の定着を目指す。
- ICTの効果的な活用を探り、共有を図る。